

研究主題 「豊かな心を育む道徳教育の充実」

～「考え、議論する」道徳の実践を中心として～

桶川市立桶川西中学校

1 研究主題の設定理由

令和元年度の道徳の教科化の趣旨を踏まえ、教員の指導力と生徒の道徳的実践力の向上を目指し、全職員で組織的に取り組むこととした。本校生徒の課題として、自分の考えや心境を自由に表現したり発表したりすることが苦手で、道徳の授業をはじめとする議論の場において活発な意見交換が見られないことがあげられる。この課題に対し①考え、議論することを旨とした道徳の授業の実践と効果的な実施方法の検討、②教材・教具の作成、③全体計画・年間指導計画の作成、④評価方法の検討と通知表等の評価例文の作成、を全職員で取り組むことで克服が果たせると考え、本主題を設定した。

2 研究の仮説

「考え、議論する」道徳の実践を中心として、意図的・計画的な学習を積み重ねることにより、生徒の道徳的実践意欲が育まれ、道徳教育の充実が図られるだろう。

3 研究の経過



4 研究の内容

(1) 授業研究部会 (授業実践部会)

① 授業研究部会の取組

- ・ 考え、議論する道徳の実践に向けた毎週の授業の提案
- ・ ロテーションの作成 (年間計画・内容項目・ローテーション順を検討)
- ・ 研究授業の提供

② 道徳科での様々な工夫

生徒がねらいとする道徳的価値を自分の課題として受け止め、豊かにいきいきと表現してよりよく生きようとする意欲を自ら育もうとする時間をめざした。

- ・多様な体験活動を効果的に関連させ、生かしていく工夫
- ・心に響く教材の選択及び活用、教材提示の工夫
- ・ゲストティーチャー、ティームティーチング等指導方法の工夫
- ・「私たちの道徳」及び「彩の国の道徳」の活用の工夫

③ 道徳科に関しての運営

- ・全クラス同一の時間に実施した。
- ・教科書、ノート（B5が貼れるノートを各学年で購入し、活用。）を使用。授業者が作成したプリントもノートに貼る。ノートにまとめさせることで、道徳の評価の資料として活用しやすくした。

ローテーションの例

	1回目	2回目	3回目
1組	A教諭	D教諭	E教諭
2組	B教諭	A教諭	D教諭
3組	C教諭	B教諭	A教諭

- ・指導力の向上のため、学年ローテーションの授業実践を年2回実施した。

④ 学年ローテーションについて

一人の授業者が同じ授業を各学級で行うことで、授業の質と指導力の向上を図る。

- ・ローテーション案は各学年の道徳担当が中心となり毎月の学年会にて提案をした。
- ・一つの教材を計5回実施する中で、よりよい授業展開を検討できる。ブラッシュアップした内容をもとに実践報告書を作成し、次年度へ有効に引き継ぐことができた。
- ・教材によっては教科的な専門性が高くなるので、各授業者のもつ専門的な知識経験を活用しやすくなった。（国際理解・公民・歴史・保健医療・自然科学・科学技術など）
- ・副担任もローテーションの割り当てに加えることで、複数の教員が生徒の実態を把握することにつながった。
- ・教材研究を分担し、1つの授業の教材研究に当てる時間を増やす。
- ・空き時間の教員でお互いの授業を見合うことで、指導力の向上を図った。
- ・担任だけで授業をしていないことで「評価のしにくさ」が懸念されたが、教員間での情報交換により評価を行った。（口頭報告・名簿への記入・授業振り返りシートやノート、ワークシートの利用など）

(2) 全体・年間指導計画部会

① 教科化の趣旨を踏まえた、道徳科の質的向上、教科書の内容確認

○ 道徳科の質的向上

道徳の教科化を踏まえ、行うべきこととして、道徳科の質的向上を目指した。

全クラスで年間 35 時間の道徳科の年間指導計画を確認するとともに、その質的向上を図るべく、指導内容の確認も行った。

○ 教科書の確認

学習指導要領の改訂で変更された内容項目を校内研修にて確認した。その後、令和 3 年度より使用する教科書の採択・決定を経て、教科書の教材を確認し、準備をした。年間指導計画の作成については、各出版社が示した年間指導計画を基本とし、本校の実態や、今研究を進めていくうえでの効果的な配置を考えて、若干の変更を加えつつ作成した。

② 年間指導計画・別葉の作成・見直し

年間指導計画については、本校において重点指導する内容項目や、目指す学校像、ローテーション授業での内容項目の分担などから、本校の教育活動にあった年間指導計画を作成した。また、発達段階や学校生活を考慮し、各学年で見直しを行い、1 年間の課題も踏まえて次年度に向けてその都度修正を行ってきた。さらに今年度は、G I G A スクール構想や桶川市の I C T 機器の活用事業に伴い、I C T 機器の活用について新たに枠を設け、記載するようにした。別葉については、各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を整理した別葉の作成を重点的に行ない、毎年見直しも行った。

(3) 評価部会

① 評価の方法・分担・評価例文の作成

○ 評価の方法・分担

ローテーションの授業中に、生徒からどんな発言等があったかを授業後に教師振り返りシートなどを活用し、記録を残した。→担任がこれらの記録や道徳ノートを参考にしながら、評価した。

○ 評価例文の作成

評価部会の教員で評価例文を作成→評価部会で検討→各学年で確認→完成

② 課題点・改善案の準備

- ・適切な表現で評価しにくい。→評価例文の文言等を変更した。
- ・ローテーション後に授業の様子を担当に伝えるが、評価につながらなかった。→教師振り返りシートを準備することで、評価しやすくした。
- ・教師目線だけでなく、生徒が感じたことを評価できるようにする。→学期の振り返り用紙に道徳の授業を生徒が振り返りできる欄を用意した。

③ 課題に対する改善策の実施

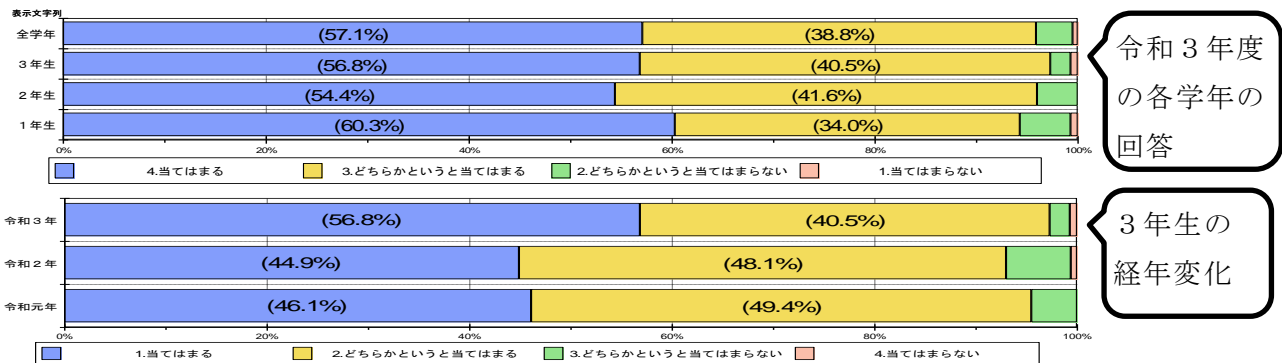
- ・昨年度に比べ、評価が行いやすくなった。今年度は教科書の改訂があったため、例文を適宜変更しながら活用した。
- ・生徒に学期毎の振り返りを実施したことで、生徒にとって印象に残っている教材や何を学んだのかを確認することができるようになった。
- ・教師振り返りシートを活用し、ローテーション授業時の様子を担任が知るができるようになった一方で、授業後に記録を残すため、負担が増え

てしまった。今後、どの程度の記録を残すかが課題である。

(4) 調査研究部

生徒の実態や研究の進捗状況を把握するために、年1回のアンケートを実施した。おおむね高い数値を示したが、道徳の授業に対する姿勢や考え、議論する道徳の授業が実践されており、効果が得られた。

問 道徳の授業では、他者の意見を聞き、自分と違う考え方や感じ方を理解し、受け止めることができましたか。



5 研究の成果と課題

今回、「豊かな心を育む道徳教育の充実～『考え、議論する』道徳の実践を中心として～」の研究主題のもと、全校で道徳の教科化に対応したことは、本校の道徳教育のスタンダードを確立することに大きなきっかけとなった。

まず、道徳科をローテーションで実施した。教員が1つの教材を深く吟味し何度も授業をすることで、その授業に対する自信をもち、展開方法を改善したり深く掘り下げるような発問を行うなどの工夫・アレンジを加えることができた。そして、今回、その実践を報告書にし、これまでの道徳科の取組を継承するだけでなく、さらによりよい授業を考案していく素材としてまとめることができた。当初、ローテーション授業を行う上で課題となったのが、評価方法である。授業振り返りシートを活用するなど色々な試みをしてきたことで、生徒の様子を日頃から共有するようになり、戸惑うことはあまりなくなった。年間指導計画と別葉については、教科化においてすべて見直し、今年度からICTの活用に関する点についても書き加えることができた。

課題として残るのは、「対話的な学び」を意識した道徳の授業の実践である。より対話を深める授業を目指して、今後も研究を続けたい。埼玉県学力・学習状況調査における「規律ある態度」に関しても、「あいさつ」や「返事」、「集団の場での態度」などが、学年が上がることに数値が伸びていることは、これまでの道徳の授業が生活面に活かされていると手応えを感じている。

4年間にわたる今回の研究では、大きな成果もあったが、課題も浮き彫りになった。本校ではこれまでの取組を桶川西中学校のスタンダードとして継続していきつつ、「考え、議論する」道徳や評価についてポイントを絞って研究をすすめていきたい。また、本研究を他校でも検討していただき、よりよい道徳の授業の実践の一助になればと考えている。